

大阪府におけるモノアラガイの生息状況および標本・文献に基づく記録

上地 健琉¹⁾・大古場 正²⁾・柏尾 翔¹⁾・
児嶋 格¹⁾・馬場 雄司³⁾

The habitat status of *Radix plicatula* in Osaka Prefecture, with the records of this species based on specimens and literatures

Takeru UECHI¹⁾・Tadashi OKOBA²⁾・Sho KASHIO¹⁾・
Tadasu KOJIMA¹⁾・Yuji BABA³⁾

Abstract: The freshwater snail *Radix plicatula* is distributed in East Asia and Southeast Asia, including the Japanese Archipelago. The snail is categorized as Critically Endangered + Endangered on Red List 2014 in Osaka Prefecture. The snails have a fundamental knowledge deficit in Osaka Prefecture. We surveyed the habitat status of the snails. Also, the past records of the snails were examined from museum collections and literature. As a result, the snails were inhabited from 18 sites in 11 municipalities. The museum's collection recorded 16 lots of specimens collected from 10 sites in 12 municipalities between 1953 and 2020. The literatures were recorded from 21 sites in 6 municipalities between 1911 and 2014. From these results, it was revealed that they are potentially distributed the whole of Osaka Prefecture.

Key words: endangered species, Gastropoda, qualitative research, natural history

キーワード: 絶滅危惧種, 腹足綱, 定性調査, 自然史

はじめに

モノアラガイ *Radix plicatula* (Benson in Cantor, 1842) はモノアラガイ目モノアラガイ科モノアラガイ属 *Radix* (Lymnaeida: Lymnaeidae) の淡水貝類である。本種は日本列島全域を含む東アジアから東南アジアにかけて広く分布しており (Aksenova *et al.*, 2018; Saito *et al.*, 2021), 複数の地域系統群が存在する (Saito *et al.*, 2021)。これらの地域系統群を別種とする見解もあるが (齊藤・福田, 2020), ここでは Aksenova *et al.* (2018) による分類および Saito *et al.* (2021) に基づき, 大阪府内に生息するモノアラガイ属を *R. plicatula* と見なした。なお, 和名と学名の対応もこれに合わせた暫定的なものである。

本種はかつて普通種とされていたが, 1980 年後半頃から生息地が減少しており (増田・内山, 2004), 一部の地域では既に絶滅かそれに近い状態にある (例えば, 川瀬, 2018; 齊藤・福田, 2020)。大阪府においては, 2000 年に発行されたレッドリスト・レッドデータブックで要注目種に位置付けられていたが (大阪府, 2000), 2014 年に改訂されたレッドリストでは絶滅危惧 I 類に変更されている (大阪生物多様性保全ネットワーク, 2014)。この変更理由については, 大阪府のレッドリ

Contributions from the Natural History Museum, Kishiwada City, No. 45 (Received January 31, 2022)

1) きしわだ自然資料館 〒596-0072 大阪府岸和田市堺町 6-5

Natural History Museum, Kishiwada City, 6-5 Sakaimachi, Kishiwada, Osaka, 596-0072 Japan

2) 大阪市立自然史博物館 〒546-0034 大阪府大阪市東住吉区長居公園 1-23

Osaka Museum of Natural History, 1-23 Nagai Park, Higashi-Sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

3) 大阪経済法科大学国際学部国際学科 〒581-8511 大阪府八尾市楽音寺 6-10

Department of Global Studies, School of International Studies, Osaka University of Economics and Law, Osaka, 6-10

Gakuonji, Yao, Osaka, 581-8511 Japan

ストの性質上明らかでない。また、大阪府におけるモノアラガイの生息状況について過去の記録と比較した研究事例はなく、本種の分布状況や生息状況に関する基礎的な知見は不足している。

そこで本稿では本種に関する知見の集積を目的として、著者らが行った生息状況調査および標本調査、文献調査の結果を取りまとめた。また、本種の減少要因としてサカマキガイ *Physa acuta* Draparnaud, 1805 との競合（大阪府，2000）、ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say, 1817) との置き換わり（高倉，2008）といった外来種との種間相互作用の影響が指摘されているため、生息状況調査では腹足綱 Gastropoda（腹足類）の定性調査を併せて行った。

方 法

生息状況調査は、2020 年から 2021 年にかけて大阪府全域を対象とした任意の採集により行った。モノアラガイの生息が確認された地点では、生息環境、おおよその生息範囲・生息密度、卵塊の有無および周辺に生息していた淡水棲の腹足類を記録した。これらの調査は、必要に応じて土地管理者の承諾を得て行った。同定および外来種の判断は主に増田・内山（2004）を参考にし、齊藤ほか（2015）、齊藤・福田（2020）、Ye *et al.*（2020）を併せて参照して行った。採集した個体は 70 %エタノールの液浸標本として、高槻市立自然史博物館（AQP）、きしわだ自然資料館（KSNHM）に登録・保管している。

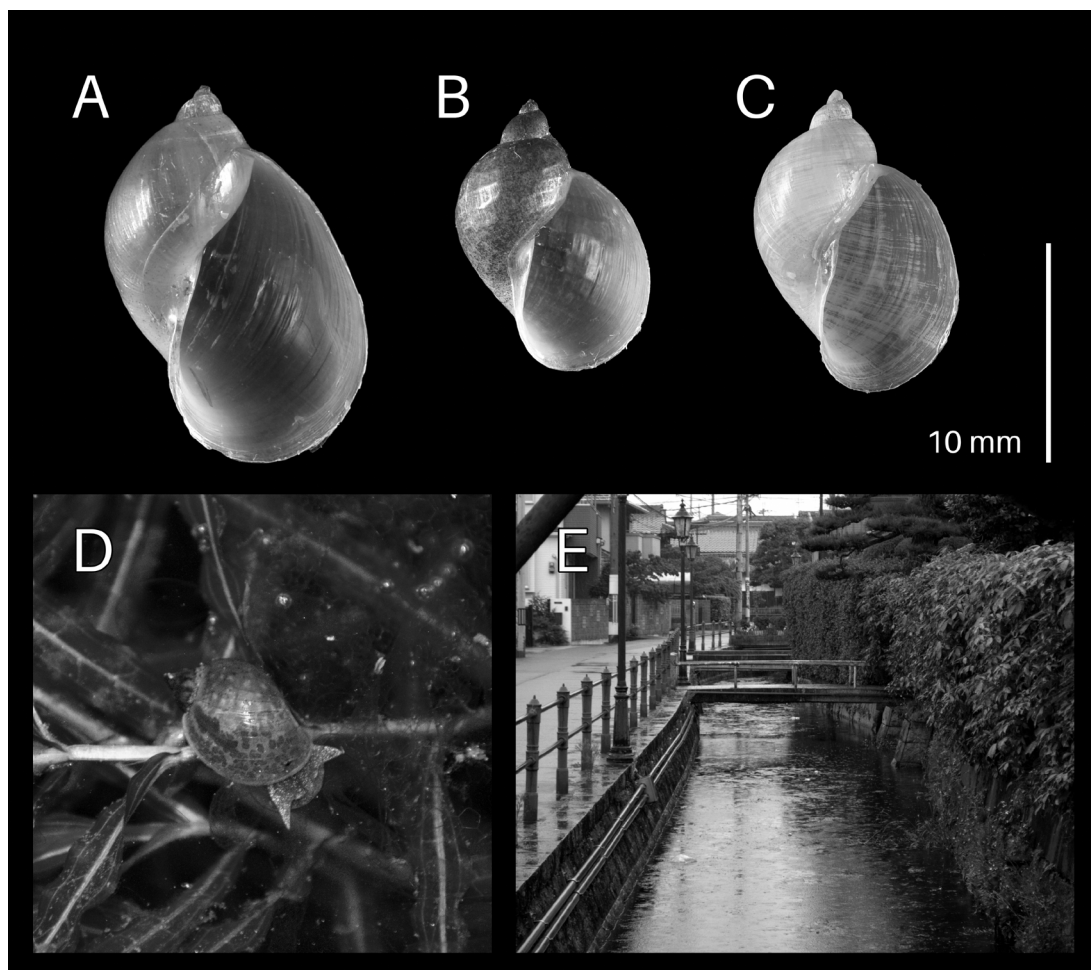


図 1. モノアラガイ。A-C：標本写真（A：KSNHM-M06224，B：KSNHM-M06240，C：KSNHM-M06253），D：生息写真（岸和田市岡山町（St. 14），2021 年 5 月 20 日），E：岸和田市岡山町（St. 14）の生息地。

標本調査は、貝塚市立自然遊学館 (KCMN)、きしわだ自然資料館、西宮市貝類館 (NCG)、大阪市立自然史博物館 (OMNH) の収蔵標本を検討対象とし、現物を確認して記録した。同じ生年月日、場所から採集された標本は、標本番号が異なっても同一ロットとして計数した。

文献調査は、原著によって「モノアラガイ」と同定されているか、対応する標本によって本種と同定されたもののうち、記録年代、記録地の市町村以下の地名または河川名が記録されているものを対象として行った。ただし、上地・柏尾 (2020) による記録は検討標本と重複するため割愛した。

結 果

生息状況調査の結果、モノアラガイは 11 市町 18 地点において生息が確認された (図 1, 2)。生息環境および生息状況の概要は表 2 に示す。このうち、標本または文献記録 (後述) のある高槻市の芥川、岸和田市の櫻池、泉佐野市の梨谷下池・梨谷上池、泉南郡岬町の多奈川ビオトープでは、本調査によって本種の生息が再確認された。一方で、文献記録のある岸和田市の長池・ハサマ池で行った調査では、本種は再確認されなかった。本種の生息地点周辺では、本種の他に 14 種の腹足類が確認された (表 1)。このうち、外来種はスクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata* (Lamarck, 1822)、ヒメタニシ *Sinotaia quadrata histrica* (Gould, 1859)、ウスイロオカチゲサ *Solenomphala debilis* (Gould, 1859)、ハブタエモノアラガイ、コシダカヒメモノアラガイ *Galba* cf. *truncatula* (Müller, 1774) / *G. schirazensis* (Küster, 1863)、サカマキガイ、メリケンコザラ *Ferrissia californica* (Rowell, 1863)、ヒロマキミズマイマイ *Menetus dilatatus* (Gould, 1841) の 8 種、在来性が不確実な種はカワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859)、チリメンカワニナ *S. reiniana* (Brot, 1876)、ヒメモノアラガイ *Orientogalba ollula* (Gould, 1859)、ヒラマキミズマイマイ *Gyraulus chinensis* (Dunker, 1848) の 4 種、在来種はマルタニシ *Cipangopaludina* cf. *laena* (Martens, 1861)、オオタニシ *Heterogen japonica* (Martens, 1861) の 2 種であった。

標本調査の結果、貝塚市立自然遊学館から 4 ロット、きしわだ自然資料館から 4 ロット、西宮市貝類館から 1 ロット、大阪市立自然史博物館から 7 ロットのモノアラガイの標本が確認された (表 4)。これらは 1953 年から 2020 年にかけて 10 市町 12 地点から収集されたものであった (図 2)。

表 1. モノアラガイの生息地点、調査年月日および証拠標本。「*」は名称不明または仮名称。緯度経度は WGS84 座標系の地図から取得し、10 進法で表記した

St. No.	地名	名称	緯度, 経度	調査年月日	証拠標本
St. 1	高槻市西之川原	芥川	34.8644, 135.5928	2021 年 8 月 4 日	AQP-Mo0038, KSNHM-M06340
St. 2	枚方市招堤中町	側溝 *	34.8362, 135.6871	2021 年 10 月 4 日	KSNHM-M06336, M06337
St. 3	吹田市千里万博公園	春の泉	34.8138, 135.5262	2020 年 3 月 18 日	KSNHM-M06024
St. 4	茨木市美沢町	小川	34.8004, 135.5676	2021 年 5 月 9 日	KSNHM-M06253
St. 5	茨木市東野々宮町	安威川	34.7947, 135.5901	2021 年 7 月 11 日	KSNHM-M06420
St. 6	堺市北区野遠町	側溝 *	34.5643, 135.5424	2021 年 5 月 9 日	KSNHM-M06254
St. 7	堺市北区野遠町	北池流入水路 *	34.5628, 135.5453	2021 年 5 月 23 日	KSNHM-M06256
St. 8	羽曳野市碓井	王水井路	34.5600, 135.6191	2020 年 5 月 23 日	KSNHM-M06025
St. 8	羽曳野市碓井	王水井路	34.5600, 135.6191	2021 年 5 月 23 日	KSNHM-M06258
St. 9	堺市東区八下町	出しぼ池	34.5553, 135.5450	2021 年 5 月 23 日	KSNHM-M06257
St. 10	富田林市新堂	石川	34.4999, 135.6071	2021 年 9 月 8 日	KSNHM-M06421
St. 11	泉北郡忠岡町忠岡南	松田池流出水路 *	34.4894, 135.3935	2021 年 4 月 10 日	KSNHM-M06224
St. 12	岸和田市春木若松町	久米田池流出水路 *	34.4772, 135.3922	2021 年 5 月 8 日	KSNHM-M06240
St. 13	岸和田市作才町	水路 *	34.4546, 135.3844	2021 年 6 月 19 日	KSNHM-M06268, M06269
St. 14	岸和田市岡山町	栄川	34.4565, 135.4212	2021 年 5 月 20 日	KSNHM-M06262
St. 15	岸和田市河合町	櫻池	34.4004, 135.4089	2021 年 5 月 25 日	KSNHM-M06259
St. 16	泉佐野市上之郷	梨谷下池	34.3681, 135.3402	2020 年 6 月 16 日	KSNHM-M06038
St. 17	泉佐野市上之郷	梨谷上池	34.3674, 135.3410	2020 年 6 月 16 日	KSNHM-M06038
St. 18	泉南郡岬町多奈川谷川	多奈川ビオトープ	34.2998, 135.1299	2021 年 6 月 1 日	KSNHM-M06301, M06302

文献調査の結果, 11 報の文献 (1: 吉良, 1941, as モノアラガイ; 2: 梶山, 1956, as モノアラガイ; 3: 紀平ほか, 1977, as *Radix auricularia japonica* モノアラガイ; 4: 高槻公害問題研究会, 1985, as *Radix auricularia japonica* モノアラガイ; 5: 大阪陸水生物研究会, 1989, as モノアラガイ; 6: 岸和田市教育委員会・岸和田市教育研究所, 1990, as *Radix japonicus* モノアラガイ; 7: 中井, 1998, as *Radix auricularia japonica* モノアラガイ; 8: 田口ほか, 1999, as *Radix auricularia japonica* モノアラガイ; 9: 山田・岩崎, 2002, as モノアラガイ; 10: 高倉, 2008, as *Lymnaea auricularia japonica* モノアラガイ; 11: 鈴木ほか, 2018, as *Lymnaeidae* sp.; 文献番号は表 5 と対応している) が確認された (表 5). これらは 1911 年から 2014 年にかけて 6 市町 21 地点から記録されたものであった (図 2). なお, 中井 (1998) では 500 m 四方のメッシュによって位置情報が示されており (合計 6 メッシュ), ここでは各メッシュから

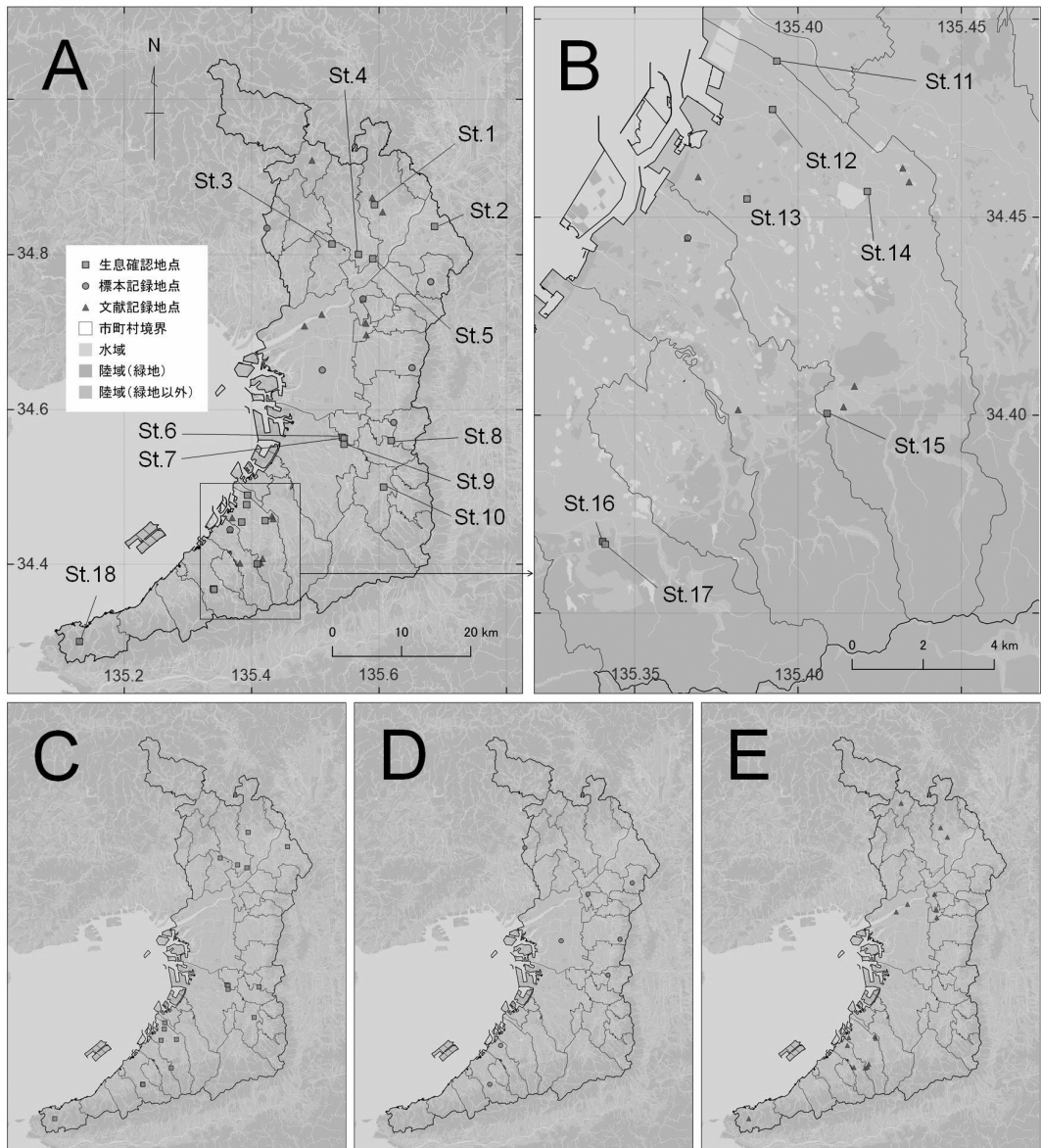


図 2. 大阪府におけるモノアラガイの生息確認地点および標本・文献に基づく記録地点. A: 全ての地点. B: 岸和田市周辺の拡大図. C: 生息を確認した地点. D: 標本に基づく記録地点. E: 文献に基づく記録地点. 地図タイルには © OpenStreetMap contributors を, 市町村境界には国土数値情報 (行政区域データ) を用いて作成した.

区レベルの地名を推定し、1 メッシュを1 地点として扱った。

以上の調査結果を10 年ごとの年代別に比較すると、大阪府においてモノアラガイの記録市町村数・記録地点数は年代によって増減があり、累積記録市町村数・累積記録地点数は増加傾向にあった(図3)。

考 察

モノアラガイの生息状況、標本、文献記録について調査した結果、本種の潜在的な分布域は大阪府全域(17 市町43 地点)に及ぶことが明らかになった。また、大阪府における本種の減少を顕著に示

表2. モノアラガイの生息環境および生息状況の概要。河川形態の分類は瀬・淵のない都市型河川を除き、可児(1944)に従った。生息範囲は4つの区分, 1: 0–10 m², 2: 10–100 m², 3: 100–1000 m², 4: 1000–5000 m²。生息密度は3つの区分, 1: 0–1 個体/m², 2: 1–10 個体/m², 3: 10–100 個体/m²によって表記した。「—」はデータなしを意味している

St. No.	環境	標高 (m)	生息範囲	生息密度	付着基質	卵塊の有無
St. 1	Bb 型河川の本流	30	2	3	礫	○
St. 2	水田横の側溝	26	—	1	コンクリート壁面	×
St. 3	親水池 (約 190 m ²)	44	2	2	飛び石・砂礫	○
St. 4	都市型河川	6	—	1	礫と糸状藻類	○
St. 5	Bb 型河川のワンド	9	2	1	礫	○
St. 6	農業用水路	25	—	1	コンクリート壁面	×
St. 7	農業用水路	27	—	3	コンクリート壁面	○
St. 8	農業用水路	24	3	3	コンクリート壁面	○
St. 9	皿池 (約 6,500 m ²)	32	—	3	コンクリート壁面	○
St. 10	Bc 型河川の本流	51	1	3	コンクリート壁面	—
St. 11	農業用排水路	4	3	2	糸状藻類	○
St. 12	農業用排水路	8	—	1	糸状藻類	—
St. 13	農業用排水路	16	—	3	糸状藻類	—
St. 14	農業用排水路	32	3	3	沈水植物・砂礫	○
St. 15	谷池 (約 3,300 m ²)	145	—	1	倒木	○
St. 16	谷池 (約 3,200 m ²)	91	2	3	落枝・落葉	○
St. 17	谷池 (約 1,500 m ²)	98	2	3	倒木・落枝・落葉	○
St. 18	ビオトープ池 (約 4,500 m ²)	72	4	3	抽水植物	○

表3. モノアラガイの生息地点において確認された腹足類

種名	St. No.																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
スクミリンゴガイ									○									
マルタニシ																○	○	
オオタニシ															○			
ヒメタニシ						○		○				○		○				
カワニナ			○													○	○	
チリメンカワニナ				○														
ウスイロオカチグサ											○							
モノアラガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒメモノアラガイ				○							○			○				
ハブタエモノアラガイ								○									○	
コンダカヒメモノアラガイ																		○
サカマキガイ		○						○	○		○	○		○				○
メリケンコザラ											○					○	○	○
ヒロマキミズマイマイ				○						○	○				○			
ヒラマキミズマイマイ	○															○		
種数	2	2	2	4	1	2	1	4	3	2	6	3	1	4	3	5	5	4

表 4. 博物館の収蔵標本に基づくモノアラガイの記録. 採集年月日, 地名, 地点名称, 採集者は標本ラベルの記載をそのまま写し取った. 著者らの推定による現在の地名や施設名, 日本語表記はカッコ内に表記した. KSNHM-M01915, M05406 は上地・柏尾, 2020: 図 1G, as *Radix japonica* モノアラガイ; 図 1H, as *Radix* sp. モノアラガイ属の未定種) によって図示されている

標本番号	採集年月日	地名	地点名称	採集者
KCMN-Mo29	2000 年 7 月 13 日	貝塚市	堀大池	岩崎拓・山田浩二
KCMN-Mo846	2006 年 9 月 20 日	泉佐野市	コスモパーク梨谷池	山田浩二
KCMN-Mo924	2020 年 6 月 16 日	泉佐野市	コスモパーク梨谷上池	山田浩二
KCMN-Mo925	2020 年 6 月 16 日	泉佐野市	コスモパーク梨谷下池	山田浩二
KSNHM-M01915	1969 年 4 月 19 日	大阪府岸和田市岸城町		
KSNHM-M05406	2018 年 10 月 6 日	泉南郡岬町多奈川谷川	多奈川ビオトープ	松岡悠
KSNHM-M05407	2018 年 10 月 6 日	泉南郡岬町多奈川谷川	多奈川ビオトープ	松岡悠
KSNHM-M06267	2014 年 11 月 21 日	守口市八雲東町	パナソニック構内ビオトープ池	鈴木真裕
NCG-29376	不詳	交野市	私市植物園 (大阪市立大学理学部附属植物園)	
OMNH-Mo39467	1963 年 6 月 14 日	柏原 1 (柏原市)		梶山彦太郎
OMNH-Mo39468	1963 年 6 月 14 日	柏原 2 (柏原市)		梶山彦太郎
OMNH-Mo39469	1963 年 11 月	枚岡市 (現東大阪市)	往生院附近の池	梶山彦太郎
OMNH-Mo39470	1963 年 11 月	枚岡市 (現東大阪市)	往生院附近の池	梶山彦太郎
OMNH-Mo39471	1956 年 5 月	池田市	猪名川	梶山彦太郎
OMNH-Mo39472	1962 年 4 月	(交野市)	私立私市植物園温室内 (大阪市立大学理学部附属植物園)	河野洋
OMNH-Mo39843	1953 年 6 月 10 日	Osaka City (大阪市天王寺区)	Tennōji Botanical Garden (天王寺植物園)	M. Hori (堀勝)

表 5. 文献に基づくモノアラガイの過去の記録. 「—」(em-dash) はデータなしを意味している. 著者らの推定による現在の地名や補足情報はカッコ内に表記した. 緯度経度は原著の表記をそのまま書き取った. 文献番号は本文中のものと対応する

記録開始年月日	記録終了年月日	地名	地点名称, 緯度経度	文献番号
1911 年 10 月	—	大阪府北河内郡諸堤村 (現大阪市鶴見区)		1
1955 年 8 月	1955 年 8 月	(現大阪市北区)	淀川本流	2
1955 年 8 月	1955 年 8 月	(現大阪市東淀川区)	中津運河筋	2
1973 年	1973 年	(不詳)	淀川	3
1973 年 11 月	1974 年 3 月	高槻市	芥川, 門前橋	4
1987 年 8 月 7 日	1987 年 8 月 7 日	豊能郡豊能町余野	余野川, 余野橋	5
1987 年 8 月 12 日	1987 年 8 月 12 日	高槻市	芥川, 塚脇橋	5
1989 年 5 月 28 日	1989 年 5 月 28 日	岸和田市摩湯町	長池	6
1988 年 5 月 28 日	1988 年 5 月 28 日	岸和田市三田町	ハサマ池	6
1988 年 6 月 19 日	1989 年 10 月 1 日	岸和田市河合町	丸池	6
1989 年 10 月 20 日	1989 年 10 月 20 日	岸和田市河合町	河合町IVの池 (榑原吉兵衛池)	6
1988 年 6 月 1 日	1988 年 6 月 1 日	岸和田市河合町	櫻池	6
1991 年	—	大阪市 (鶴見区, 都島区, 阿倍野区)		7
1997 年 8 月 22 日	1997 年 8 月 22 日	貝塚市	近木川, 水間大橋	8
2000 年 7 月 13 日	2000 年 11 月 24 日	貝塚市	堀大池	9
2007 年 5 月 14 日	2007 年 5 月 14 日	大阪市鶴見区	鶴見緑地自然体験観察園蓮池 34°42'42" N, 135°34'46" E	10
2011 年 4 月	2014 年 12 月	守口市八雲東町	ビオトープ池 34.743°N, 135.575°E	11

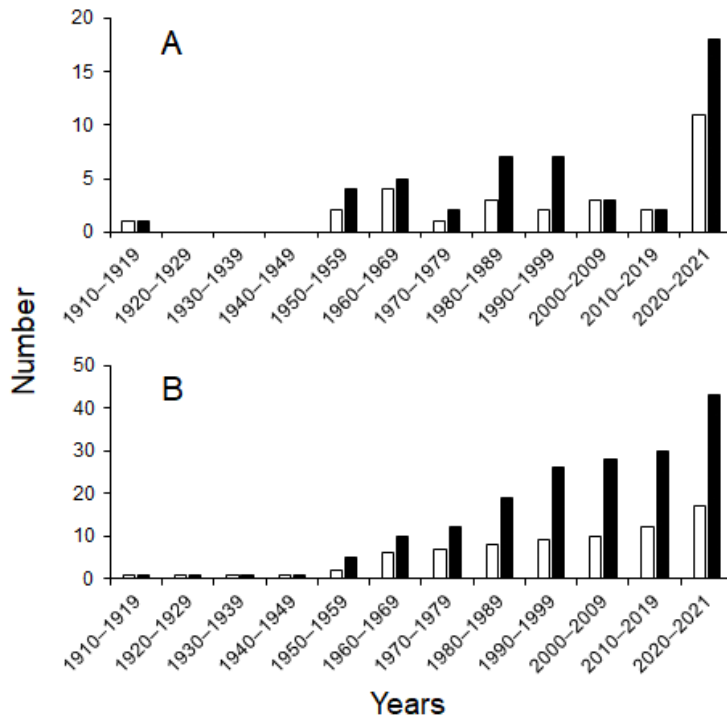


図3. モノアラガイの記録市町村数・記録地点数の変化。Aは年代ごとの記録市町村数(白)と記録地点数(黒), Bは年代ごとの累積記録市町村数(白)と累積記録地点数(黒)。

すデータは得られなかった。生息状況調査では、大阪府内の広い範囲から点的に本種の生息が確認され、各地域の個体群が存続している可能性が示唆された。

一方で、標本や文献記録から過去にモノアラガイが生息していたと考えられるものの、本調査で再確認できなかった地点もあった。この他に、標本に基づいて記録された岸和田市岸城町や、田口ほか(1999)によって記録された貝塚市の近木川、梶山(1956)および紀平ほか(1977)によって記録された淀川でも、その後に行われた調査では本種は再確認されていない(貝塚市立自然遊学館, 1999; 紀平ほか, 2003; 上地, 2020)。また、梶山(1956)によって記録された中津運河筋は、運河そのものがほぼ埋め立てられた。したがって、少なくともこれらの局所個体群は絶滅した可能性がある。

以上から、大阪府においてモノアラガイは近い将来に絶滅する可能性は低いと考えられるものの、生息地は限られており、継続的なモニタリング調査や積極的な保全活動が望まれる。また、本種の生息地のほとんどで外来種が本種とほぼ同所的に生息しており、これらの種間相互作用についても今後の動向に注視する必要がある。

謝辞

貝塚市立遊学館の山田浩二学芸員、大阪市立自然史博物館の石田惣主任学芸員、西宮市貝類館の渡部哲也学芸員、高槻市立自然史博物館の花崎勝司研究員、きしわだ自然資料館の風間美穂学芸員、科学教室力塾の小川力也塾長、大阪府立富田林高等学校の奥川陽平氏、近畿大学大学院の藤田衛氏、きしわだ自然友の会の西山綺音氏、大阪大学の松崎拓実氏には現地調査および標本・文献調査にご協力いただいた。岡山大学の福田宏准教授にはモノアラガイ属の分類に関してご教示いただいた。ここに記して感謝申し上げる。

引用文献

Aksenova, O. V., Bolotov, I. N., Gofarov, M. Y., Kondakov, A. V., Vinarski, M. V., Bespalaya, Y. V., Kolosova, Y. S., Palatov, D. M., Sokolova, S.

- E., Spitsyn, V. M., Tomilova, A. A., Travina, O. V. and Vikhrev, I. V., 2018. Species richness, molecular taxonomy and biogeography of the radicine pond snails (Gastropoda: Lymnaeidae) in the Old World. *Scientific Reports*, 8:11199.
- 貝塚市立自然遊学館(編), 1999. 近木川流域の動植物. 30 pp. 第23回全国育樹祭大阪府実行委員会, 大阪.
- 梶山彦太郎, 1956. 淀川川口附近の淡水貝分布. *VENUS*, 19: 49–54.
- 可児藤吉, 1944. 溪流棲昆蟲の生態. 日本生物誌 昆蟲上巻(吉川晴男編). pp. 171–317. 研究社, 東京.
- 川瀬基弘, 2018. 名古屋市内から絶滅したモノアラガイ *Radix auricularia japonica* Jay, 1857. なごやの生物多様性, 5: 27–131.
- 紀平 肇・長田芳和・鉄川 精, 1977. 魚貝類. 淀川河川敷生態調査報告書(淀川河川財団・鉄川精編). pp. 75–107. 近畿建設協会, 大阪.
- 吉良哲明, 1941. 本邦産 *Camptoceras* 2種の模式産地に就て. *VENUS*, 11: 97–98.
- 岸和田市教育委員会・岸和田市教育研究所, 1990. 岸和田市の溜池自然環境調査. 岸教研刊行集 No. 848. 83 pp. 岸和田市教育研究所, 岸和田.
- 増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240 pp. ピーシーズ, 東京.
- 中井一郎, 1998. モノアラガイ. メッシュマップ 大阪市の生き物<分野別調査報告書>(みどりとしきものマップづくり会議「大阪市の生き物」編集委員会編). 283 p. 大阪市環境保健局環境計画課, 大阪.
- 大阪府, 2000. 大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—. 442 pp. 大阪府環境農林水産部, 大阪.
- 大阪陸生生物研究会, 1989. 大阪府下の川と魚(河川漁業権漁場の生物生態調査報告書 1987年調査). 147 pp. 大阪府農林水産部水産課, 大阪.
- 大阪生物多様性保全ネットワーク(編), 2014. 大阪府レッドリスト 2014. 48 pp. 大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課, 大阪.
- 齊藤 匠・福田 宏, 2020. モノアラガイ近似種・ナデガタモノアラガイ・カワコザラ. (岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県版レッドデータブック 2020 動物編, pp. 470–471, 473. 岡山県環境文化自然環境課, 岡山.
- Saito, T., Hirano, T., Ye, B., Prozorova, L., Shovon, M. S., Do, T. V., Kimura, K., Surenhorloo, P., Kameda, Y., Morii, Y., Fukuda, H. and Chiba, S., 2021. A comprehensive phylogeography of the widespread pond snail genus *Radix* revealed restricted colonization due to niche conservatism. *Ecology and Evolution*, 11:18446–18459.
- 齊藤 匠・内田翔太・平野尚浩, 2015. 宮城県から新たに記録された外来ヒラマキガイ科貝類 *Menetus dilatatus* (Gould, 1841). ちりばたん, 47: 83–86.
- 鈴木真裕・平井規央・石井 実, 2018. 大阪府の都市部に造成されたビオトープ池の大型無脊椎動物群集に及ぼす池干し効果. 環動昆, 29: 1–12.
- 田口圭介・古賀清美・但馬由美・中川美智代・山口直喜・佐々木 仁, 1999. 近木川の底生動物と水辺環境. 大阪府公害監視センター所報, (19): 79–92.
- 高倉耕一, 2008. 大阪およびその周辺地域に優占する外来巻貝ハブタエモノアラガイ *Lymnaea columella* (Say) とその自家受精による繁殖能力. 大阪市立環境科学研究所研究報告, 70: 43–51.
- 高槻公害問題研究会, 1985. 淀川水系・芥川における底生動物調査(1972年～1980年). 関西自然保護機構会報, (10): 1–22.
- 上地健琉, 2020. 岸和田城百間堀の水抜き調査で確認された淡水産無脊椎動物. *Melange*, 19: 18–21.
- 上地健琉・柏尾 翔, 2020. きしわだ自然資料館軟体動物類収蔵目録. きしわだ—自然資料館研究報告, (6): 41–51.
- 山田浩二・岩崎 拓, 2002. 貝塚市内のため池の水生動物調査 I. 貝塚の自然, (4): 18–27.
- Ye, B., Saito, T., Hirano, T., Dong, Z., Do, V. T. & Chiba, S., 2020. Human-geographic effects on variations in the population genetics of *Smotia quadrata* (Gastropoda: Viviparidae) that historically migrated from continental East Asia to Japan. *Ecology and Evolution*, 10: 8055–8072.